

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成26年7月24日(2014.7.24)

【公開番号】特開2013-32058(P2013-32058A)

【公開日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2013-008

【出願番号】特願2011-168200(P2011-168200)

【国際特許分類】

B 6 0 K 17/35 (2006.01)

【F I】

B 6 0 K 17/35 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年6月9日(2014.6.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0079

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0079】

[第2の実施の形態]

次に、本発明の第2の実施の形態について図4を参照して説明する。本実施の形態は、図3に示すフローチャートのステップS106の指令トルクt_cを補正する処理の後に、さらに指令トルクt_cを低減する再補正処理を行う他は、第1の実施の形態と共通である。図4では、この再補正処理における処理内容の一例を示している。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0082

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0082】

この判定の結果、外気温T_eが閾値S_{H_{te}mp}よりも低い場合には、ステップS106で補正された補正後の指令トルクt_cをさらに低減する補正を行う(ステップS202)。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0083】

このステップS202の処理では、例えばステップS106における補正後の指令トルクt_cに、1未満の係数k₂を乗じた積を再補正後の指令トルクt_cとし、又は予め定められた所定のトルク値に指令トルクt_cを置き換える。この場合、係数k₂は例えば0.5~0.8であるとよい。また、この予め定められたトルク値は、例えば駆動力伝達装置2による最大のトルク伝達容量の50%以下、より望ましくは30%以下であるとよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0085

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0085】

次に、制御部32は、ステップS203で算出した傾斜角 θ が閾値 SH_{gr_a} よりも大きいか否かを判定する(ステップS204)。閾値 SH_{gr_a} は、例えば5°以上の値に設定される。この判定の結果、傾斜角 θ が閾値 SH_{gr_a} よりも大きい場合(S204: Yes)には、ステップS106又はステップS202で補正された再補正後の指令トルク t_c をさらに低減する補正を行う(ステップS205)。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

このステップS205の処理では、例えばステップS106又はステップS202における補正後の指令トルク t_c に、1未満の係数 k_3 を乗じた積を再補正後の指令トルク t_c とし、又は予め定められた所定のトルク値に指令トルク t_c を置き換える。この場合、係数 k_3 は例えば0.5~0.8であるとよい。また、この予め定められたトルク値は、例えば駆動力伝達装置2による最大のトルク伝達容量の50%以下、より望ましくは30%以下であるとよい。